

2012年度 NGO 外務省定期協議会・第2回 ODA 政策協議会 議題

釜山閣僚級会合フォローアップにかかる日本政府の対応について

(特活) 国際協力 NGO センター 理事長
大橋 正明
ohashi@keisen.ac.jp

1. **背景**：

援助効果にかかる第4回釜山閣僚級会合(2011)で合意された「効果的な開発協力のための釜山パートナーシップ」を受け、先般、新たなグローバルガバナンスである「効果的な開発協力のためのグローバルパートナーシップ」(以下 GPEDC)の発足、およびその内実として10項目のモニタリング指標が合意された。今後はモニタリング指標に基づき、各国レベルで釜山合意を着実に実行していくことが求められており、GPEDCがその促進とモニタリング機能を担うこととなっている。

本政策協議会ではモニタリング10項目にかかる日本政府の対応、とりわけ日本の文脈において非常に重要となる援助のアンタイド化に関する取り組み状況について、外務省からの情報共有を受けた上で意見交換を実施したい。

2. **議題提案理由**：

- ▶ ブライアン・アトウッドDAC議長と日本のNGO関係者の非公式意見交換会(10月14日)において、日本政府とDACとの間で援助のアンタイド化を含む釜山合意フォローアップについて意見交換をした、との情報を得たため。
- ▶ 釜山合意では、各国がアクラ行動計画に従い、援助のアンタイド化の努力を更に加速すること、また2012年末までにアンタイド化計画を提出することが約束されているため。
(para. 18-e)

3. **質問事項**：

- ▶ DACの対日援助審査でも指摘されたように、日本政府はDACとは異なる定義でタイド、アンタイドを報告しており、NGOはこの整理を求めてきた。先般来日したDAC議長と日本政府との意見交換会への出席者と議題内容について伺いたい。とりわけ、アンタイド化を取り巻く環境についてどのような議論があったのかを伺いたい。
- ▶ 釜山会議後に外務省国際協力局に設置された9つのタスクフォースの進捗状況について伺いたい。
- ▶ モニタリング10項目にかかる日本政府の対応状況について伺いたい。
- ▶ 2012年12月末が提出締め切りとなっているアンタイド化計画について、策定の進捗状況とその内容について伺いたい。